

「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「セミナーⅠ」
(赤ちゃんふれあい体験)
(保育学科)

はじめに

保育学科は、保育者の養成を目的とする学科であり、ほとんどの学生は保育士証と幼稚園教諭二種免許状の取得を目指している。2年間で2つの資格を取得するためには、90分授業が連日4～5コマあり、その多くが保育に関する講義や演習科目という状態となる。入学後、学生たちは授業数の多さに直面し、「こんなに大変な学科だったのか」と感想をもらすこともある。しかも、1年前期は実習に関する科目でも実習準備の座学が中心となり、11月の教育実習まで子どもたちと接する機会がない。

そこで、平成29年度より、セミナーⅠ（1年前期・水曜日・3コマ目）の中で、赤ちゃんに触れ合う体験を取り入れる計画を立て、触れ合う活動を実施している。時期は、4月末のオリエンテーションを終え、児童文化鑑賞と運動会を体験した後の6月である。この時期は、大学生活への慣れと2か月間の疲れが出る時期と重なり、自身の進路への適・不適を口にする学生が出ることもある。この時期に赤ちゃんに出会うことにより、「保育者になる」という動機づけを高めることができるのではないかと考えた。

方法について

・学生の活動単位（班）の分け方について

現在、講義科目では1学年を6つのセミナーに分け、6人のチューターが担当している。1セミナーは平均16～17名であり、さらに、2つずつをグループ1（以下G1）、グループ2（G2）、グループ3（G3）と表現し、行事や体験学習の際にまとまって活動するグループとしている。赤ちゃんふれあい体験はG1、G2、G3で行った。したがって、1グループの人数は30名程度である。1グループを6つに分けて1つの班とした

・2019年度の実施日時を示す。

グループ1：2019年6月5日

グループ2：2019年6月12日

グループ3：2019年6月19日

事前学習について

ふれあい体験を実施するにあたり、事前学習が必要となる。学生たちの赤ちゃん体験には個人差があり、多くの学生は入学前の職場体験やインターンシップ以外に赤ちゃんに触れ合う体験を持っていない。1年前期には、「保育の心理学（内容は発達心理学）」や「子どもの保健」、「子どもの食と栄養」などの科目があるが、赤ちゃんに関する実際の知識がまだまだ豊富とは言えない。そこで、各セミナーに3冊ずつ「いっさいはん」という絵本（図1参照）を備え、事前に赤ちゃん（1歳半を中心に）のことを学ぶ機会を持った。その時に当日の質問内容や観察の観点を話し合った。



さく・え みんち
出版社：岩崎書店
(2016)

図1 事前学習用の絵本

活動の内容について

事前に「ぶんぶんひろば」の参加者に、授業への協力を依頼し、1歳前後の赤ちゃんとその保護者の参加者を募った。多くの場合、保護者達は非常に協力的で、1回6家族の参加者は容易に決まった。ただ、赤ちゃんは、当日体調が悪くなることも多く通常1～2家族多く募集した。1グループの学生を6班に分け、各班の質問時間を8分として、ぶんぶんひろばスタッフが交代を告げ、学生たちは順次次の家族へと移動した。残りの時間は自由に「質問」や「赤ちゃんに関わる時間」とし、抱っここの練習をさせてもらう、赤ちゃんの遊びを観察する、一緒に遊ぶなどの時間とした。

学生たちはいきいきした表情で家族に質問し、積極的に赤ちゃんにかかわろうとしていた。赤ちゃんを抱っこさせてもらう学生もあり、保育者を目指す学生にとって有意義な時間となった（写真1～4に示す）。

振り返りの取り組みについて

前年度に、本活動を検討し、ふれあい体験した後に記録（ドキュメンテーション）を作成する必要を感じた。そこで、今年度はふれあい体験のあと各グループで簡単な記録作成を実施した。

活動中の自分の姿を顧みる事は、学習の良い機会になると考え、各グループの活動中の写真を配布した。それを切り取って用紙に貼り、さらに、自分たちの感想と調べたことをレイアウトして、A3の用紙で記録を作成した（写真5）。その後、各グループの記録を互いに読み合うことが出来る様に展示した（写真6）。2名の感想を下に示す。

学生の感想

○赤ちゃんふれあい体験に参加して、一人ひとりの発達のレベルは、同じ年齢の子どもでも全然違うことや、妊娠しているときから出産までの大変だったことやしんどかったことのエピソードを聞くことができて、また少しだけ、子どもに関する知識を増やすことができました。どの子どももみんなそれぞれの個性があって、人見知りを全くしない子や、恥ずかしがる子、話しかけてきてくれる子などいました。どの子どもかわいくて、とても癒されました。将来は、一人ひとりの個性を受け止め、子どもに寄り添って、見守ったり、必要な時にはサポートの出来るような保育者になりたいと思いました（Yさん）

○お母さんの話を聞けるのは、とても貴重な時間でした。親が悩んでいることに対して、これから保育者としてどう対応していけばいいか、自分が母親になったらこうしようなどと、いろいろなことを考えることができました。改めて、保護者と保育者の連携は大切だなと感じました（Mさん）



写真3 抱っこの練習①



写真4 抱っこの練習②



写真5 記録の作成



写真1 質問風景

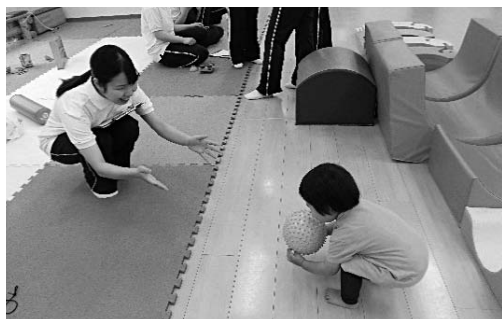


写真2 子どもとの遊び



写真6 記録の展示

（文責：保育学科 田頭 伸子）